

東京オリンピック・パラリンピック開催まで、残り1年を切った。チケットの抽選も終わり、その結果に一喜一憂した読者も多いことだろう。東京から離れた地方で診療や雑用に忙殺されている私にとって、この一生に1度のイベントに参加できる余裕があるはずもなく、チケットの申し込みさえしなかった。酷暑の東京での熱い闘いを、冷房の効いた部屋で楽しむんだと、ひねくれた私はうそぶいている。

アスリート・ファーストというお題目をよく聞くが、オリンピック・パラリンピックについていえば絵空事のような。前回の平昌冬季オリンピックでは、人気のある地域の時間帯に合わせて競技が行われた。フィギュアスケートは午前中に、ジャンプは夜遅くにと、時間調整に苦労したアスリートも多かったことだろう。夏季オリンピックでも、欧州のサッカー、米国のアメリカンフットボールやバスケットボールがオフの夏に行われるので、来年も酷暑の中でアスリートは大変なことだろう。運営サイドとしては放映権のために致し方がないのだろうと大人の理解はしてみても、それならコマーシャル・ファーストと銘打つほうが潔いのではと、これまたひねくれた私は思ってしまう。

さて、本号の特集は「脊椎内視鏡手術の進歩」である。高橋敏行編集委員が選んだ執筆者は錚々たるメンバーで、現時点での最先端低侵襲脊椎手術を漏れなく網羅している。私事であるが、およそ20年前に米国 Albany Medical College で腹腔鏡視下腰椎前方除圧固定術を見学したことがある。低侵襲手術でよい方法だと感じたが、一般外科医とコラボで行っていたので、敷居が高い印象をもったことを記憶している。同じ頃に Foley らが microendoscopic discectomy (MED) を報告し、これが嚆矢となって日本で内視鏡手術が広まり、現在の全内視鏡下手術につながっている。

アスリートは自分の身体と精神を鍛え抜くことで、晴れの舞台に上がることができる。その過程では血のにじむようなトレーニングを繰り返しており、身体の故障も日常茶飯事で、故障しても早期の競技復帰を望んでいる。せめて医療界は、アスリート・ファーストで低侵襲手術を極めていきたいものである。

(永島英樹)

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

萬年 徹 高橋 昭 金田清志
小山素磨 小柳知彦 田代邦雄
国分正一 服部孝道

編集委員

徳橋泰明 (編集委員長)
金 彪 (副編集委員長)
青木茂樹 亀山 隆 園生雅弘
高橋敏行 高安正和 谷 論
永島英樹 中村雅也 根尾昌志
飛驒一利 松山幸弘 山崎正志

Vol. 32 No. 9
(2019 年 9 月 25 日発行)

毎月 1 回 25 日発行

1 部定価 (本体 2,300 円 + 税)

(配送料別)

年ごめ予約購読料 30,700 円 + 税

送料弊社負担

発行/株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷 6-17-9

本郷綱ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>

(担当: 山岸)

印刷所/三報社印刷株式会社

TEL 03-3637-0005

広告申込所/

(株)文栄社

TEL 03-3814-8541

(株)ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.
6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2019,
Printed in Japan

JCOPY (出版者著作権管理機構 委託出版物)

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。